



先月、東京西荻窪・ほびっと村学校での「カウンターカルチャー・アーカイブ」という講座に呼ばれ、3日ほど上京する機会があったので、東京で新聞を置いてもらえる店を開拓しようと新宿と渋谷の書店をまわってきた。

## Irregular Rhythm Asylum

(IRA=イレギュラー・リズム・アサイラム)

東京都新宿区新宿 1-30-12-302  
[Phone] 03-3352-6916  
[E-mail] info@ira.tokyo  
https://irregularrhythmasylum.blogspot.com/  
http://ira.tokyo/  
https://www.facebook.com/irregular-rhythmasylum/

新宿御苑前駅から徒歩で近いビルの3Fに、IRA (イレギュラー・リズム・アサイラム) というアナキズムの書店がある。サイトの自己紹介にはアナキズムだけではなく「dedicated to the following "A"s.・・・」と書かれており、Aとは: Amigo, Artist, Activist, Anarchist, Autonomist, Anti-Authoritarian, Amateur, Agitator, Angry-Youth, Anarcho-punk, Anti-Fascistと書かれていて、そういうテーマのものが置かれているようだ。国内・海外の本、古本を中心に、Tシャツ、バッグ、CD等々が販売されていて、そのごちゃご

ちゃ感にわくわくした。横のスペースではちょうど写真展をやっていたが、ライブや映画会、WS、講座などもよく開かれている。またリソグラフがあり利用できるようになっていそう。

僕はつい最近までこの店のことを知らなかったが、世界中の大きな街にはこういった店があり、そのネットワークがあるので、それを伝えて旅をし各店で現地の情報を得るそうだ。新宿のIRAはちょっとわかりづらい場所にあるが、外国人を含めはっきりなしに人が出入りしていた。

さっそく名前のない新聞も販売してもらおうことにして、店主の成田さんにいろいろお話を聞かせてもらった。(あ)

「この店は2004年にオープン。ことし15年目で、基本的にアナキズム関係とバンク。

info shop という形態でやっていて、それは北米から広がったもので、自分たちで自立的な空間をつくる実践の中から出てきた店の形態。商品売るだけでなく、いろんな行動のミーティングやモノを作るワークショップをやったり、人が集いながらDIYで必要なものを作り出す技術や知識を共有しようということに重きを置いた店。

今までは、展示、トークのイベント、お店同士のネットワークの集まり、インフォショップの国際的なネットワークがネット上にも紙媒体でも



共有されている。

ここにおいでるものは本が中心で、本は新刊もあれば古本も。新刊はこの店と関係の深い人が出版したものなど。他はアナキズム関係の資料が多い。毎年、世界各地でアナキストブックフェアという見本市が開かれる。それも大きな都市ではよく開かれている。それぞれ独立した組織なんだけど、ゆるいネットワークでつながっている。組織というより連合 それぞれの自主性を尊重しつつ、横のつながりを意識的に作っていく。

今後の展望としては、点と点のつながりを、どれだけ広くゆるく、しかも豊かにつなげていけるか。目的っていうとそれくらいですね。

Irregular Rhythm Asylum という名前は、大杉栄の「美は乱調にあり」という言葉から、乱調=イレギュラー リズム=調べ アサイラム=アジール (聖域、避難所)、つまり乱調をもった人の避難所、というような意味なんです。特に新宿にあるので、ここに来れば消費社会とはまた別の空間があると思います。」

↑レジの前で話す成田さん。コーヒーやビールも頼める。

## Flying Books

PHOTOGRAPHY, GRAPHIC, OLD MAGAZINES, BEAT

東京都渋谷区道玄坂 1-6-3  
[Tel] 03-3461-1254 [Fax] 3463-8152  
[E-mail] info@flying-books.com  
http://www.flying-books.com/  
日曜定休 12:00~20:00

ホビット村での講座が終わった翌日、講座を主宰し司会役を務めていた友人のきこりと昭子さんの3人で渋谷にあるFlying Booksを訪ねた。



ここでは毎年ボブとナーガの春風巡るツアーのライブを開いたり、ナーガの詩集を何冊か発行。またナナオの世話をするなど部族関係者と親しいというのでどんなお店なのか前から興味があった。

店の場所は渋谷駅西側にあるMARK CITY そばの比較的静かな通りにあり、1階が老舗の古書店サンエー、3階には古着屋さんが入っていて、その2階にFlying Booksがあった。店主の山路和広さんは古書店の三代目だそうだ。

中に入ってみるとゆったりしたレイアウトでおしゃれな雰囲気だ。書棚にはレールがついていて、ライブなどのイベントを開くときは移動させ脇に寄せられるようになっている。書棚に並んでいるのは海外の雑誌や写真集、絵本などが多く、そのため外国人のお客さんも多いそうだ。古書が中心で新刊書は少なそうだったが、「アイアムヒッピー」など部族関係の本、詩集、それに雑誌スペクテーターなども置いてあった。かなりマニアックな品揃えの店だ。

またこの店にはカウンターがあり、コーヒーやビールなどもオーダーできる。この日はカウンターでいいに淹れたコーヒーをごちそうになりながら、山路さんのお宝だというインクメーカーがつくったサイケな特色印刷の見本帳や60年代にサンフランシスコで出たカウンターカルチャーの新聞オラクルのファクシミリ(複写)版=復刻版や絶版になっているゲイリー・スナイダーの朗読アルバムC



←余裕あるレイアウトの店内。書棚を動かすレールが床に見える

D (日本で出されたもの) などを見せてもらった。名前のない新聞のバックナンバーもオラクルのようにして出せばいいとも言われた。またナナオとのつきあいの経緯や旅の話、学んで来たことや仕事の話なども聞かせてもらった。カウンターでカルチャーのお話をしたわけでした。(あ)



↑カウンターで。山路さんが次々とお宝を出してきた。

サンフランシスコ・オラクル復刻版が面白くて夢中になって最後までみてしまった↑